

骨端線閉鎖前の反復性膝蓋骨脱臼に対する suture anchor を用いた MPFL 再建術

○佐々木 宏, 黒田 良祐, 松下 雄彦, 久保 晴司, 松本 知之, 荒木 大輔,
高山 孝治, 黒坂 昌弘

神戸大学 整形外科

【目的】

反復性膝蓋骨脱臼に対する治療の一つとして, 内側膝蓋骨大腿靭帯 (MPFL) 再建術が行われ, 様々な術式が報告されている. しかしながら骨端線閉鎖前の患者における治療法は未だ確立されていない. 我々は骨端閉鎖前の患者に対して suture anchor を用いた MPFL 再建術を行ってきたので報告する.

【対象及び方法】

対象は反復性膝蓋骨脱臼を有する 4 名 (男 3 名, 女 1 名) 4 膝. 手術時平均年齢 14.2 歳. 平均術後調査期間は 12.1 ヶ月. 移植腱には半腱様筋腱を用い, 大腿骨側・膝蓋骨側とも骨端線損傷を最小限にとどめるために suture anchor を用いて移植腱を逢着固定した. 術後臨床評価には再脱臼の有無, apprehension test, Crosby & Insall の評価方法, スポーツ復帰を用いた, X 線学的評価として congruence angle, patella tilt を計測した.

【結果】

術後再脱臼例なく全膝で apprehension は消失した. 全例 Crosby & Insall の評価では excellent で, スポーツ復帰が可能であった. X 線計測においても有意な改善を認め, 健側と比較して骨成長障害を認めなかった.

【考察】

骨端線閉鎖前の反復性膝蓋骨脱臼に対して suture anchor を用いた MPFL 再建術を行い, 成長障害なく良好な術後臨床成績を得た. 今後, 我々の MPFL 再建術方法は, 骨端線閉鎖前の反復性膝蓋骨脱臼に対して有用な治療法の一つになり得ると考えられた.